



開卷敬馬哥俠文傳

第四集



壹

13
3157
16



三
卷
三
第
三
十
三
頁

三
卷
三
第
三
十
三
頁

開卷驚奇俠客傳第四集總目錄



一 河川の下の

壹卷

第二十一回

以毒製毒造化小配劑
臨機應變奸賊投名狀
暴論勵親雷九郎撈龍潭
夜察殺氣姑摩姬夷羣虎



三 子卓の投名狀

貳卷

第二十二回

姑摩姬莎庭斬四賊
復一郎後門逞石技
喪子恨五十植作偽書
投名悔荷二郎陷同惡



四 八木の夜

叁卷

第二十三回

柱主婦筆柿分贓財
誅殘盜就盛置放免
滿家二旋密策
楠女前知得失



五 夜よりの下

四卷

第二十四回

假密使雙傳令旨
楠女俠明辨玉石
持永借山眷恋姑摩姬
正直稟囑漫做月下翁



六 楠登

五卷

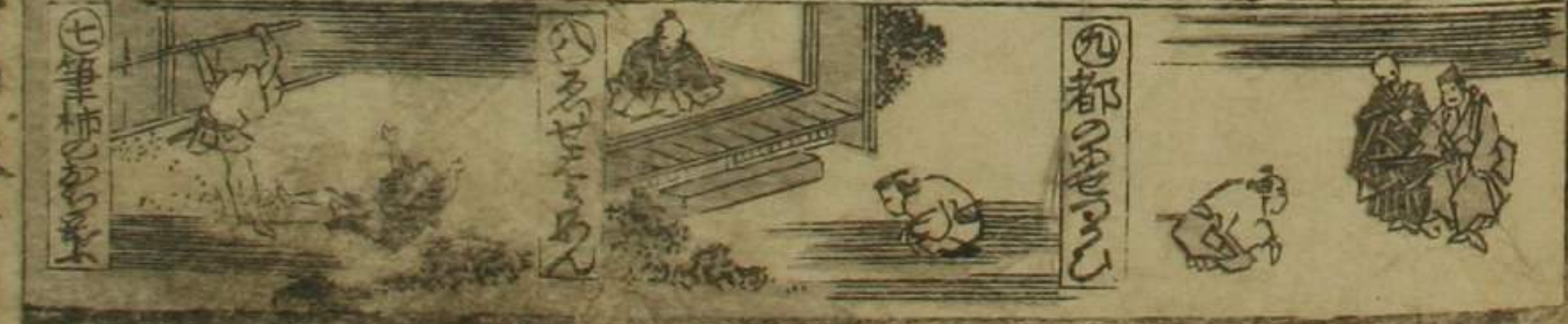
第二十五回

女俠購死猿擬駿馬骨
心猿發狂大徵艾毒黨
隱形術豪袁救長總
如醴交泰勝結荷二



七 筆師の

總目錄終 本集話起應永十八年 盡平九年 冬十二月 其三十一回已上 終目錄見第三集首卷



八 都の



九 赤坂の陣

伏魔傳第四卷

卷五



男は蝶子
 あをまきま
 花はうらむ
 はるなり我
 羨の世と
 さとくは
 雕窩老

富生真介
 七右衛門
 左衛門

藤持蝶子
 七右衛門

像替集二下

五
 像替集二下



誰に被岸
 地上風波
 心言不亂
 著作堂

楠僕鏡
 手作き

賢婢
 垣衣

伊豆石舟車老一

老一



伝説名物四車巻一

六
筆玉堂印



信天翁
 遊佐河内守
 像登玉西



依... 車 卷一

像登玉西

憶おもひて顔かほ加くへて仕しるか今いまののち命いのちと死んだ身みの儘せんの。遮さげ莫な潜ひびぬる首。
 柳やなぎのた不ふ便べんせん術じゆつあると其まけは荷か二に郎らう介け多たと黙頭もくづでめび腰を鍵と合ぬく。
 那な這こと合しる長なが総そうが身柳やなぎの肩鎖かたと披合あ棄すて然而しか木き免めん六ろくが要宵よの帯を脇。
 押おの刀と合てる身みの帯を七首しゆと防御ぼくごの與かと長なが総そうの透與とと身を折御お小こ。
 木き免めん六ろくがと来きぬ張燈ちやう撲ぼく地ちと蹴飛けせ板壁いた中ちゆうでと滅めと滅る身夜よの紛れ共侶りよ。
 塀へいと衆と後門ごもんの方かと折おりと子こ二にの敬言けいごん宵よの雜兵ざへい二に名なうち連れん立たて二個に。
 左ひだり右みぎの張燈ちやうと捍棒けんぼう引ひ提ひてぬき来二に個にの鑢子しよ木きうち鳴なりし。夜よ行ゆくとと喚聲こゑも。
 霜しも天あま子こ牙が一いつ字じ路ろの撞見つ首くびの荷二に郎らう長なが総そう折おりしと思へとも避る小路せうろもならぬのう。
 些ちも怯まぬ無む敵てきれ本性しやう荷か二に郎らうの長総そうと後の立りを儘まま遣や違ちがいとあらうと先ま找た。
 一いつ個にの雜兵ざへい怯おそれとさらう引提ひる張燈ちやう高たか推お抗かて癖者くせ等らと叫林はやしの息も引せ。
 荷か二に郎らうが内りしる刃の電光でんくわう棒ぼうと禁るふも及び不憐れんむと雜ざ兵へいの肩尖かたより。

乳ちゆうの上うへで破れて苦くと叫びぬる身を合落おちを張ちやう燈ちやうと推潰おして死しんだは自足じよくを喚ぶ。
 一いつ個にの雜兵ざへい有あ賊ぞくとと喚わりて鑢しよ子しよ木き列れれと鳴なりし。逃にげとせと荷か二に郎らうの血刀ちゆうたう。
 うちら揮趕きん鬼きと破と敷る刃の牙の水も溜らぬ後ご頭もくづ破やれと走はり五六ろく歩ぽ去さ向むかの方。
 石いしを踏て倒れ折れ敷る首の鮮血せんけつ漬し放はなて二間まあらい深々と飛と走はりとと落下おちぬ。
 けの悠ゆり一程いぢやう小せう長なが総そう今いまあらい支の為体たい吐はきとと多駭おそれ怕れて身みを潜して杖しやうとゆ。
 志し既いしと雜ざ兵へいの破仆おれを透として蒼あは然ぜんとし顔かほの色も吻とく息いきも冬夜ふゆよの白く做りゆ苦く中ちゆうの懺悔ざんげを伏走ふしり近着ちかつ荷二に郎らうの雜兵ざへいの捍棒けんぼう合あれと其まけは死し。
 示ししと身みの軀を鑢子しよ木きと撈り合しりうち打う鳴なせし長なが総そうの捍棒けんぼうを屋石いし突つ突つ响ひびく。
 志し那な敬けい言ごん宵よの如くあらう外そと塹ぜんを迫る塹と踰塹を乗のる准備じゆんびの鈎索こうさくあるを。
 りて荷か二に郎らうの开と投擲ていぢやくて長総そうと扶杖ふしやう。身みの軀を輒くち踰をる猢猻こまの技或あるは似。
 たり。左右みぎあらう外塹ぜんの城樓じやうろうの邊来きりぬ這こ里こゝ石いし垣かきの高くと輒た登のぼりぬもあらう。

ぬ。荷二郎が腰不附し。亦只の鈎索のさるる。伸其十何不餘る。松牆索さへある。

 りて。開き。ち。楓々。長。総。と。扶。掖。多。堀。と。乘。て。稍。墮。際。下。立。ち。の。り。く。這。城。斬。り。

 最。廣。く。七。八。間。も。あ。る。と。思。ふ。倘。一。葉。の。衣。負。と。藉。ら。む。い。く。し。と。渡。去。死。然。の。あ。ま。

 ども。山。極。の。天。の。例。も。も。凍。強。り。け。れ。斬。の。水。酷。く。氷。り。と。棒。と。敲。く。突。も。破。ま。ま。

 荷。二。郎。情。々。地。の。權。び。り。の。石。と。去。り。ひ。り。拾。起。し。と。投。試。る。氷。の。特。厚。な。り。る。月。も

 碎。け。む。打。ま。り。隨。石。の。前。面。走。り。け。り。天。の。幫。助。と。長。総。も。又。權。び。棒。を。ち。り。氷。の。上。に

 下。立。し。荷。二。郎。の。扶。掖。を。前。岸。に。著。し。造。化。微。妙。と。情。語。を。城。と。離。れ。て。高。明。に

 小。夜。の。中。山。の。ま。ま。赴。く。程。四。老。村。の。東。ま。り。れ。荷。二。郎。の。村。盡。多。狐。屋。の。門。備。の。停。ま。て

 長。総。の。耳。は。き。き。我。も。の。身。も。這。空。を。走。る。人。の。怪。め。れ。て。路。の。難。美。及。び。せ。我。る。月

 思。ふ。も。の。あ。れ。姑。且。這。里。に。立。ま。り。て。共。侶。の。逆。旅。の。准。備。と。せん。身。の。其。頭。且。且。の。

 と。其。後。で。後。方。の。退。け。馳。て。這。狐。屋。の。門。忙。しく。打。敲。せ。妖。魔。の。呻。や。鈍。梅。の。刀。自。村。長。刀。袴。の

使。り。火。速。の。要。あり。快。起。と。而。三。番。喚。覚。せ。内。出。店。と。回。答。し。と。連。の。火。を。鑽。り

 行。燈。へ。移。し。と。馳。て。指。燭。し。と。戸。と。開。く。の。の。鈍。梅。の。あ。ら。ん。年。の。三。十。許。る。一。個。の。漢。子

 出。て。來。り。真。夜。羊。る。ん。の。長。刀。袴。より。使。あり。と。何。更。と。同。く。憶。を。灯。光。で。面。を。照

 者。信。と。て。和。郎。の。木。綿。張。荷。二。郎。を。と。何。の。程。より。救。小。遇。小。さ。る。牢。と。踰。る。小。あ。ら。ん。と

 い。の。甘。も。果。を。荷。二。郎。の。怒。る。聲。を。ゆ。り。立。て。噫。寢。惚。れ。飲。畜。生。奴。が。恩。と。仇。を。密。訴。の

 返。報。此。と。啖。と。拔。敷。の。小。見。光。し。る。刀。尖。錯。の。件。の。漢。子。の。額。と。破。れ。て。叫。苦。と。さ。り。小。仰。反

 なる。身。の。稍。起。ま。し。の。大。刀。の。尻。と。破。れ。て。颯。と。漬。る。濃。血。と。曳。り。又。逃。ぎ。遣。ら。し。と。找。む

 荷。二。郎。の。透。き。ま。し。奥。踏。入。たり。更。の。鬧。動。の。臥。房。る。鈍。梅。の。吐。嗟。と。胸。と。潰。し。と。逃。を

 旁。の。曹。立。ま。し。人。と。喚。ん。と。欲。ま。れ。も。憶。れ。て。敲。耳。を。空。に。横。と。被。り。又。剥。ぎ。立。ま。り。と。あ。ら。ん

 平。張。り。の。躲。れ。難。なる。將。場。の。雉。子。の。良。人。の。危。窮。も。身。の。危。ま。る。と。か。る。追。送。る。り。程。の

 荷。二。郎。の。件。の。漢。子。の。背。門。へ。逃。ん。と。また。り。と。執。鳥。鳥。の。似。く。趕。綱。と。韓。竹。割。の。砍。仆。ま。る。

依名在舟車卷一

九

刀も拭いで引返を臥房の内へ猶も伏し鈍や鈍梅が横引被ひて、弥陀仏々々々と唱へ
 たる頭髪を梳き引揃せしめ、同様に膝布締めて、淫婦奴荷三郎を思ひ仇敵を
 報ひの恨と責れを戦く呼吸苦しく許しあふと、の聲と共、閃く水の刃、左の丁と探返
 きて、胸前鬪敵と刺串け、漬る血、飲と散りて、壁を掛り、葛丹葉野中の樗木も霹
 靂の裂れて枯る命あり時あり、虚空を抗て息絶けり、然るに又荷三郎の外の外へ在
 ると、四下と隈多く、歩獵し絶て人影もせざり、かむを、外立立して、透し眺め、長総を招
 び、其處で權且入りて、休むと、よ長総の訝り、引れて内へ入り、又主人とおぼし、男
 女二名の那と這と、砍伏されて、獵の獲の野緒、似これ、是の什麼と、をろり、怖れて、退れぬを
 せし、荷三郎急不披禁めて、訝りある、這奴の我と、見身の仇、これ、恨と復したる、さ
 ず、あて具、報ぎの、訝り、思ま、支の情と、説示、さ、秋、冬、の夜、の、と、長、多、の、曉、る、の、尚、程
 も、あ、る、今、解、諦、ま、来、歴、と、ら、所、き、茶、と、沸、ね、冷、飯、も、も、索、出、し、て、腹、と、造、り、て、遣、へ

けれ先々とのひつちも、身と起し、門の立て人の、と、那、這、と、を、さ、る、か、の、戸、を、引、て、杖、と、鎖
 ち、合、め、大、き、く、昔、の、処、小、坐、と、占、れ、長、総、の、胸、安、く、ね、と、獨、行、た、り、さ、る、土、炕、の、頭、小、り、
 上、と、て、強、む、ろ、の、埋、火、と、撥、起、し、焼、着、る、柴、の、松、枝、の、花、火、口、移、れ、変、る、身、の、久、後、の、儘、只、
 人の自在、金酒家、の、尻、尻、を、去、向、を、意、ぬ、大、胆、無、敵、の、荷、三、郎、も、土、炕、の、頭、小、膝、と、找
 依、印、胡、坐、落、着、貌、小、聲、と、低、り、喃、俺、妹、兒、听、方、統、殺、し、た、男、女、二、名、の、我、と、見、身、の
 怨、敵、之、這、頭、の、名、の、と、知、と、う、ん、曾、根、川、と、新、阪、の、間、小、丁、の、四、老、也、瘦、村、を、れ、隣、舎、を
 遠、く、然、る、に、又、那、街、妻、小、夜、二、と、誣、る、鈍、梅、之、又、那、漢、子、の、賣、油、兒、也、膝、松、と、喚、做、し、た、
 亦、是、這、頭、の、獨、脚、兒、鈍、梅、が、與、出、奸、夫、之、昔、の、主、人、皺、三、の、最、吝、嗇、多、性、を、れ、短、記、
 の、身、と、を、入、れ、人、交、り、と、せ、り、か、村、人、通、て、丸、彈、と、藪、阪、の、名、を、肩、し、た、鈍、梅、の、素、も、り
 淫、婦、也、良、人、の、酷、と、各、る、と、相、貌、の、最、醜、を、疎、ま、し、と、思、ひ、け、ん、那、膝、松、と、密、會、ひ、し、我
 も、初、の、知、所、り、小、膝、松、も、賭、錢、と、好、め、我、身、這、地、小、來、ぬ、比、も、一、席、不、連、り、日、も、ま、ら、れ、か

疎くぞ介程小藤松の有一日酒家小情詰り。和主咱們小憑れて我村の飯三三結末
 めつら辛苦錢の小判十兩五ともの傍本日小取せん情由の悠々箇様々と鈍梅と夫婦
 るま欲き。癖の顛末奸夫淫婦の情願送も示しと音く相譚れ。我の折
 賭の輪け。那藤松小債もあり。素よりと介る筋小找と易易本性多れ。臺も礙
 謀を領れて。まろ左せ右ねと謀。合らる次の宵小這里の背門より潜入り。折
 うう主人皺三の猛可な發り。病苦堪ぢ。打俯き。嘔吐在り。思ひの隨刺殺
 去て計りて。板厨の衣箱とを引中へ。皺三が亡骸。衣箱小斂て搭駝折其
 頭子置れ。中刀も撥擲ひ。走出て小夜の中。山小赴。然而その衣箱の山中。山神の
 廟内。卸しと更。中刀の東へ距ると遠る。あぬ山路小棄て走り。小無慙。お小夜と
 りんが命運竭。祥る。秋の曉。ふ中刀と拾。衣箱と竊せ。より四老人們小疑。まそ
 命と預せ。のまね。お身も鈍梅小誣られて。介説立。曾根川。獄舎。囚れ。り。い

奸夫淫婦の念願成就の時とゆふと飲びて。幾程も。藤松の數阪許。後家入。あて
 鈍梅と夫婦。あり。けり。然而前約の。ゆれ。我の折。十兩金の辛苦錢。を。ゆれ。介
 後も亦。左。右。小賭錢。小造化。する。けり。い。藤松鈍梅。們。小錢を。借ん。と。幾。米。由。致。り。て
 豪巧。な。けり。小。這。奴。們。の。推。辞。と。ゆ。阿。容。々。々。と。と。の。度。毎。小。此。の。錢。を。并。積。した。ま
 ども。竟。お。悪。吉。の。發。覺。る。と。り。お。あ。ん。と。怕。れ。け。折。り。城。主。曾。根。川。殿。より。地方。の。夕
 人。と。驅。ん。と。情。々。地。小。緝。捕。の。沙。汰。お。け。れ。藤。松。鈍。梅。の。折。と。ゆ。夫婦。商量。あり。けん
 有。一。目。藤。松。の。城。小。あり。て。酒。家。が。騙。賊。と。ゆ。密。訴。せ。り。小。我。身。の。捕。捕。られ
 たり。既。小。の。美。と。猜。せ。り。小。我。も。亦。那。奴。們。を。抱。り。て。奸。淫。惡。吉。の。始。末。を。尋。ね。あ。り。日。の。れ
 ども。然。り。小。我。も。皺。三。を。殺。した。罪。免。れ。た。か。り。い。お。せ。り。と。思。難。く。折。り。藤。松。鈍。梅。の。折。と。ゆ。み
 は。死。身。の。隣。り。獄。舎。在。り。憎。む。と。の。憎。飽。る。藤。松。鈍。梅。と。仇。と。思。へ。更。お。我。身。を
 憐。愍。の。心。も。其。首。不。起。り。たり。我。の。往。処。毎。小。脱。獄。の。計。策。と。設。措。さ。る。の。ゆ。け。れ。を。助。系

要折の盤纏も亦身を脱る楮梯ゆ。せよとあり。豫も近山路は瘞措を。金貨を
 四見おして囚牢司の木免六を結果る我計較首といひ。尾の箇様々なり。死と
 煩く解示其長総の今。復寐の夢に覺る如く。舌を揮ひ姑く。只感嘆の聲を
 沿断ぎ。又荷二郎長総。対ひて我妹の奇偶と思ひ。津の騙局中山の危
 難の我をせ。直るれとも。竟るその身の必死と極て。兩個の仇と殺され。徳こそある損ち
 る。不思議の縁。とりのまの。と。長総額と拊て。所謂と听け。過世あて。八重結ひ
 せ妹伏の奇縁。脱れぬ中であの。初め身が相計て。中刀と棄衣箱と捐る。其
 よも。て小夜二郎が果敢多く。命と預せ。可悼うで。れとも。い。如く。這身の必死と脱れて
 知る。雙言敵と殺る果され。の。大恩特。知智慧。了。世。捷れ。る。主。直。久。後
 憑。か。ぬ。と。答る。間。小。梢。焚。沸。る。茶。釜。の。湯。氣。と。俱。あ。り。荷。二。郎。の。危。瀕。より。飯。櫃
 索。ひ。て。携。り。来。て。各。各。装。の。茶。淘。冷。飯。一。膳。二。膳。三。膳。三。世。界。の。儔。稀。る。似。而。非。胆。勇。死

る。け。の。晝。飯。と。楮。梯。を。掃。き。を。拭。濡。し。と。芭。蕉。造。ら。な。荷。郎。の。納。戸。の。衣。皮。箱。を
 銭財。と。這。那。共。引。出。し。來。て。女。服。と。長。総。の。五。四。五。襲。被。さ。し。て。その。身。も。之。被
 更。る。有。餘。の。錢。も。さ。ら。に。困。り。て。袱。の。推。包。と。錢。と。金。と。送。り。腰。の。纏。り。舞。の。偷
 竊。小。熟。て。脱。落。る。冤。家。の。東。西。を。火。速。の。打。粉。連。愛。を。行。装。と。ち。戲。れ。と。折
 菅。笠。三。箇。縁。頼。る。柱。不。搦。て。あ。り。け。と。心。も。も。又。か。へ。て。あ。る。究。竟。と。極。合。ら。う。沙。菅。笠
 長。総。の。遍。与。と。俱。四。皓。の。村。を。離。れ。茂。林。驛。の。間。道。岐。路。人。家。遠。山。又。山。路。と。走
 下。る。先。之。河。路。の。く。と。投。き。ま。り。在。明。の。月。又。笠。と。傾。け。扶。導。く。脚。少。い。と。程。の
 生。憎。の。天。の。明。れ。と。身。の。暗。い。影。も。も。願。け。り。介。程。の。曾。根。川。の。城。内。の。敬。言。宵。の
 雜。兵。二。名。の。枉。死。と。その。曉。る。不。死。の。あり。よ。塚。見。木。免。六。が。敷。る。その。支。の
 為。体。並。不。荷。二。郎。長。総。の。獄。舎。に。在。る。り。這。那。一。度。の。木。免。六。が。宅。着
 る。有。司。齊。一。胆。浸。し。て。原。來。木。免。六。が。敷。れ。も。又。雜。兵。們。が。枉。死。せ。り。荷。二。郎。長。総。の

徳川御成敗式目

十一

卷之十一



荷三郎夜復密許也
おのゝもまたあはれなる
あはれなるもまたあはれなる
あはれなるもまたあはれなる

有像第四十三

伊勢物語 卷一

所為多し。他們の獄舎と跡たるも堀を乗り斬り渡して出て易くはぐり開頭
 隠れて存りぬせん快索ひよと罵り鬧り張燈蕉火打振々々樹の井陰屋の間に漏
 ま隈多く涉獵りかもの音も性方へ知れどて天のうらふ明し時候外堀る斬る氷の
 上の葉を扒牆索ありけり人食を喰へんとて出来荷二郎長総の這扒牆索を
 の堀を乗りぬ氷を渡り脱ぎぬ他領に到りぬ程快部とて趕捕下とてその隊
 配といへども猛可の事を雜兵聚合し左右を程日弁りと既辰牌ありし時
 候四老の村長莊客們が賊難の訴あり有司の是を訊りと縁由と鞫る村長們が直書
 せり。昨夜真夜半のころるべ村の經紀人藤松と喚做せり。宿所強盗の入りりけり
 屋主藤松と女房鈍梅と惨殺して金銀衣裳と奪去る。その迹既分分明を素より
 知せぬが如く驛路より田舎あわれ隣舎といへる遠くゆきを知りしゆりて天の明
 一時候畊ま者の野田も折見半と鬧り立てるれば情由も性方も先占空口あり

照驗とてのゆきとを多く稟上り有司們をうち所り藤松といぬ比久荷二郎を
 密訴と捕捕せりぬか。素より四老の經紀人多るや。同へ村長然れ他我れを
 賣油郎でゆり小妻奴もあふぬ日村人皺云が後家鈍梅入敷負た接木兒
 いとふ有司們領して然る藤松鈍梅們を破殺したる強盗必是荷二郎あり若們
 いまぞ知るべ。昨夜這里も人を害して獄舎を踏ま囚徒あり。その御向藤松が密訴
 する。水綿張の荷二郎と長総と賊婦と意外件の荷二郎の密訴の怨を復さんと
 昨夜脱れ半折這里も躬て那里に到りて藤松們を殺せり。若們もその意をゆる
 る身も賊の性方と索ねよ。実檢使の義の所せぬ程遠く遣まし。罷立ぬといふ
 せが大家存一言兼して。そが戻退り出さぬ。介程有司們の親兵幾十名ある荷二郎長
 総們を趕捕下とて部と四方へ遣し。よと主君あけえあげて藤松が宿所へ実檢使を
 遣し。衆口と听定めて穿鑿等困るべれぬ。時後れるるれば竟の昭驗多るなり。因て

一宿二宿と旅寝する折に富士河の頭を馳身のちうきの騙局まぎに搦なられる。それより後の憂苦うれ患難うれの豫よて知しれ次第しだいのゆる前夫まへうの四十二の厄年やくねんに敷しかれぬ奴家やつやの今茲いま三子さんしとのひは、小こ要時せうじ口訥くたつりてたう八世はつせいはるか。とふ荷か二郎にらう點頭てんてうて意いふは優ゆううる親身おんみの素生すせい鎌倉かまくら武士ぶしの奥おくさるも落おれがかる。谷川やがわの水清みづきよければ魚うい栖せを非ひ除じゆ濁じやくり不ふ後ごう。世よの偷ちゆう見けんは妻つまのるとも不ふ自由じゆうさる我われのあはれも皆みな是こゝろ過世かぜの業ごう因いんるを以もつて絶たえ恨うらみのあは。年としの二十八にじゅうはちるんぬ。酒家しゆかの一歳いちさいの姉あねれとも縁ゆかり致いたはれらちてあ。二十にじゅうとふとよけあふあ。総そうて暴は掙しやうと做しやうきもの常言じやうげんふの三日さんじつ平氏へいし運うんぶ向むけに王侯わうこう貴人きじんも及およびか。樂がくある我われ那な五十ご槌づちの隊たいも属ぞくて。今いまより河内かふちのわかれと二ふたの町敵まちかたで朽くも果はんや尺蠖せきかくの伸のびんとは。且または身み縮ちぢむとのへ只ただ當分たうぶんの階梯かいたいの。竟つひ一花いちか開ひらき。段だんもあふん等らうのひと耳みみを示しして慰なぐさむ。長なが総そう听りつ微笑びごうて。そを憑たもりくはるか。と心こゝろいふ。又またはふ心こゝろの。既すでに今いま茲こゝろに旅たび宿しゆくの暮くれて明あれ。応永おうえい十九年じゅうきゅうねん春はる正月しんげつの中な瀬せ時とき候ごう荷か二郎にらうの亦また長なが総そうと。河内かふちの千劍せんけん破やぶれ。赴おもむき

は。豫よて計けいり一言いちごんの如ごとく長なが総そうと。そを依より千劍せんけん破やぶれ。村むらに程ほど遠とほく。飯い店てんに留とど置まて。荷か二郎にらう一個いっごう身み装まと五十ご槌づちが宿しゆく所しよに赴おもむき。ふ名な言ごん向むけに地方かふちの武人ぶじんに。随まり尋たづねぬ難がたむ。既すでにその宅たく地ぢに近ちかづて。但ただは黒腰くろこし板いたの茅かや庇ひある。土つち塙はたけと左ひだり右みぎの。衡へい門もんの柱はしらに標ひら札さを打うちて。五十ご槌づち電でん次じと寫なり。たれに問とひても紛まぐ。あ。門かど壁かべの内うちに松まつあり。梅うめあり。折をり。正月しんげつの天あまるれば。爛らん曼まんする梅うめが香かの單たん葉はの既すでに衰おとろへるあり。八はち重じゆう南なん枝えを盛もり。其その頭かぶの書しよ院いんの庭にわるべ。東あづまの方かたに孫まご相あひまの武ぶ藝ぎの生徒せいとの学まなぶ所ところと。呼よびて。連つらり相あひま敷しき木き刀やの音ね丁てい々々と。登のぼり。時とき水みづ綿わた張はり。荷か二郎にらうの角かく門もんより找たづね入り。呼よび。門かどと西にし三さん聲こゑ。立たち。來きり。若わ黨たうの茶ちや。く。うち對たいひ。小こ可かの東あづま園えんより。御ご高たか名なと。景けい草そう。といふ。御ご門もん生なる。く。欲ほし。御ご門もん推おし。推おし。第だい一いち美みの。ま。景けい試しんと。機き密みつあり。拜をり。折をり。方かた寸すんと。盡つく。ま。らんと。欲ほし。此こゝろの。下した。景けいの。か。と。若わ黨たうあり。給たまはる。く。小こ要せう時じ等らうの。心こゝろと。奥おくへ。退ひく。時ときと。程ほどさ。又また。來きり。卒つひ。這こり。方かたと。荷か二郎にらうと。客きやく房ぶどうに。迎むかひ。茶ちやと。薦すゐ。め。せ。程ほど。學まなぶ。劍けんの

代の彈んより一巻の優とま。世に立よる巨樹の蔭葛藤見出巻れよ。世話三ある今
 よりあてのそえんむらひて一掙せ。緑林眞如稱はせと訪ひまろ。一客を愛はる兒胸
 寛く。あく見ん賜り。悦び何事。是か如んや。然良縁虚か。願ひの随ふ做らる。六
 遍死力。盡ま下。いりて兼引ぬひか。舒る聲音の東訛。有轂糸外を憚。そ高か。ねる
 委ね辯舌。天不誓言。地小盟ひて赤心。示さまで一癖ある。に面覓。冥茶一人。當千の本支。を必
 する。と。思ひぬの。さうけり。そ中。隆光の。听々。を。く。領。て。い。る。趣。その。意。を。い。り。既。我。武
 名。と。其。茶。ひ。く。機。密。も。修。へ。穿。と。あ。れ。推。辞。死。あ。わ。ね。も。知。音。の。紹。介。る。死。故。速。の。兼。引。か。た
 かり。約。莫。我。隊。小。属。き。欲。し。と。初。て。這。里。來。り。の。非。除。知。音。の。紹。介。あり。と。投。名。状。を。晋
 呈。せ。ば。留。ま。と。と。允。され。開。も。亦。あ。る。め。ま。れ。秋。と。向。て。荷。二。郎。然。ひ。を。免。ひ。兼。知。伴。氏
 そ。い。う。や。う。の。寫。め。ぞ。ん。教。を。せ。め。か。と。と。隆。光。う。ち。笑。ひ。徐。小。左。右。と。え。か。な。く。汝。連。件。の。投。名
 状。の。趣。と。示。し。ぬ。とい。へ。大家。阿。と。応。る。中。の。一。人。找出。荷。二。郎。ふ。ち。對。ひ。て。あ。る。木。綿。張。刀。祢。毛

え。初。て。御。意。と。得。ぬ。咱。們。の。當。家。の。老。門。生。雲。館。奇。峯。五。と。喚。々。と。の。目。今。回。れ。投。名
 状。の。筆。硯。と。し。て。做。り。ぬ。ぞ。抑。我。老。先。生。の。隨。身。の。志。願。あり。と。初。て。這。里。來。り。の。目。今。回。の
 執。行。と。し。て。約。當。郡。を。除。く。外。或。は。隣。國。他。郷。に。到。り。て。單。身。ふ。し。と。皇。家。家。ふ。ち。入。り。或。は。高
 旅。を。剪。徑。し。と。金。銀。美。女。を。獲。て。先。生。晋。呈。さ。る。と。投。名。状。と。命。け。り。そ。の。執。行。の。佳。記
 の。ハ。軀。て。股。肱。の。列。せ。さ。る。力。其。首。まで。至。ら。ざ。と。も。遇。ふ。儘。し。て。行。客。を。欲。殺。し。て。盤。纏。と。俱。に
 首。級。と。實。檢。ふ。入。れ。ま。れ。ば。汝。々。の。執。行。と。せ。し。て。股。肱。の。列。せ。入。れ。ぬ。も。隨。身。を。允。る。恒。例。都。て。あ。り。の
 如。し。因。て。投。名。状。の。與。あ。る。の。山城。大。和。二。国。史。と。の。路。近。は。一。十。許。里。遠。は。二。三。十。里。不。過。され。ば
 往。還。七。日。の。限。り。と。ま。出。て。七。日。及。ぶ。ま。投。名。状。と。晋。呈。され。ば。是。則。縁。を。連。他。郷。走。り。て
 重。て。這。地。の。來。ぶ。が。足。下。這。毛。と。能。せ。ら。る。や。と。の。れ。て。荷。二。郎。沈。吟。あ。る。肚。裏。の。事。を。我。の
 騙。局。と。宗。と。な。れ。ば。年。來。美。女。の。財。宝。も。累。々。奪。取。さ。る。多。し。も。不。知。案。内。の。重。を。遣。り。て。拵
 ん。と。欲。さ。る。往。還。遠。は。七。日。の。限。り。と。ま。入。ら。ん。と。心。の。こ。ね。尚。能。せ。ぬ。是。非。も。更。に。他。郷。赴。き。て

騙局で二期も過ぎ過ぎ。その左も右もあつた。遠杏と這里来り。投名状と果をまじりて
まじり影と躲せし。どつて後指と差れる。最朽とある。一書をあつた。地を尋思ま
つ。荒介と投名状の趣。初て美知仕の何吉奉えと思ひ。その美を。難くもあつた。七日却附
た明日も。小可との受。能志下。と。お大家誅。と言勇。似れ。投名状。その日中。果。う
め。れ。わ。も。鬼。神。不。測。の。術。を。似。而。非。廣。言。わ。も。と。呆。れ。面。を。照。り。ま。も。痛。く。も。い。け。り。

第三十二回

暴論親を勵して雷九郎龍潭と撈る
夜殺氣を察して姑摩姫群虎と爽々

登時雷九郎隆成の特更不憚雄る。後生の癖。い。け。い。荷二郎。ふ。ち。對。て。木。綿。張
力。祢。其。不。肯。され。も。主人の獨子。五十植雷九郎隆成。和殿。目。今。投。名。状。を。明。日。も。等
た。で。能。せん。との。れ。い。あ。る。ゆ。り。神。出。鬼。没。の。妙。術。あ。る。秋。の。所。以。具。あ。は。ま。く。欲。ま。と。詰。る
荷二郎。怯。る。色。多。く。原。来。和。君。の。老。先。生。の。令。郎。也。と。り。ま。せ。り。よ。る。小。可。と。そ。神。仙。飛。行。の。劍

術とゆるふあ。ま。又。投。名。状。自。限。あ。る。前。知。ち。准。備。あ。る。あ。ね。小。可。御。當。會。根。川。城。あ。る。
獄。舎。を。敷。き。れ。り。折。脱。れ。る。は。這。地。に。到。り。當。家。の。下。風。を。立。た。せ。と。以。伊。主。の。あ。り。一。有。一。女
獄。舎。を。踰。る。折。騰。れる。獄。舎。に。囚。れる。一。個。の。婦。人。と。太。專。累。と。俱。し。當。所。に。未。多。る。を。初。見
参。の。牽。出。物。の。老。先。生。の。獻。上。ま。せ。と。豫。思。り。寸。志。あ。あ。れ。取。も。要。ま。ま。投。名。状。の。執。見。を。充
へ。災。の。あ。ら。む。を。抑。路。人。を。害。し。て。東。西。と。畧。る。の。還。て。日。勿。く。俱。不。圖。圍。の中。に。在。婦。人。を。奪
ふ。極。め。て。難。く。信。れ。い。今。よ。り。七。日。と。限。り。て。他。郷。に。暫。と。涉。獵。し。よ。り。件。の。婦。人。を。投。名。状。の
做。さ。し。捷。徑。の。ゆ。り。ま。せ。と。お。大。家。笑。局。を。入。り。て。そ。り。又。奇。と。録。る。哉。俱。し。た。婦。人。の。何。列。の。人
氏。を。年。の。幾。歳。を。標。致。の。甚。麼。と。問。ふ。と。荷。二。郎。又。う。て。件。の。婦。人。の。民間。の。人。と。成。る。の。は。あ。り
ぶ。又。私。窠。嫖。娼。の。類。あ。ら。ま。鎌。倉。管。領。家。の。寵。臣。多。け。藤。白。隼。人。正。安。同。の。室。を。う。か
那。安。同。の。新。田。の。餘。類。助。則。と。い。猛。者。小。主。從。名。残。多。く。敷。る。不。覚。外。口。め。よ。り。て。あ。の。亦。並
ま。刺。宅。眷。を。追。れ。り。那。内。室。の。只。一。個。あ。る。伴。當。を。お。て。覺。束。多。く。も。京。師。路。投。て。あ。り。初。め

ともひと。ぬまひと。あ。うが。うけ。その伴當が偷見ふ似る疑ひと稟り。その身は薄情や近邊の村人們の殺されまわ
 婦人の捕捕されて久く獄舎に敷き置かれ。その主従が冤屈の呵責の原小可が四老村の
 蕙夫淫婦に憑られて。外お薛子と移さんと。棄て。東西と。那伴當が拾合。越度ふれり。小
 可這と後悔して。憐愍の心も起り。我々云云と。地方の城主の訴で捕捕せし。讐敵の
 件は蕙夫淫婦に多れ。恨まの堪。逃脱の計策を旋り。既の獄舎と諭る折る罪を
 ら。婦人と極めて。蕙夫淫婦と殺した。件の婦人の稍衰の花を年齢二十八九三千の
 る。く。なれも。標致の世に捷れて。のり。さ。辨才あり。走筆いと愛。縫刺の技のへど
 ち。詩歌管絃の技藝まで。学び。つ。と。み。つ。その名を問ひ。長総と喚ぶ。め。め
 ひ。結ぶ。便の。あ。ゆ。似。る。只是奇貨との。く。この。この。東西と。投名状の帳目。裁
 只今。浴。の。幸。ひ。れ。優。と。あ。う。と。咄。目。辯。舌。奕。奕。奥。を。添。り。説。話。を。隆。光。つ。ら。く
 うち。所。て。連。の。嘆。賞。の。聲。と。絶。え。猛。可。な。貌。と。改。め。て。思。ふ。優。人。は。牙。幹。の。身。獄。舎。に

敷き置かれ。脱去する。即智え。その罪。と。憐。婦人。と。極。ひ。の。折。那。恨。ある。母。笑
 淫婦と殺せし。勇。又。美。の。婦人。に。獲。ま。る。と。遊。女。の。售。も。せ。み。つ。犯。ゆ。け。の。是。則
 信。義。況。件。の。美。婦。人。に。送。査。我。の。贈。ん。も。ね。て。来。け。の。礼。忠。言。受。め。の。仁。義。八。行。を。一。箇。に
 とも。ゆ。の。我。黨。誰。う。あ。え。且。目。今。い。れ。ど。前。刀。徑。と。奪。ふ。の。易。く。囚。徒。を。極。の。難。う。り
 言。の。趣。の。意。を。い。さ。快。の。婦。人。を。俱。と。ま。ね。役。の。立。死。の。る。隨。身。の。美。拒。障。あ。ら。の。い
 きて。荷。二。郎。怡。悦。の。堪。む。の。辱。れ。と。先。見。入。れ。ま。つ。人。姑。く。せ。め。の。心。で。驅。て。衆。人。の
 楯。を。ら。速。く。旅。店。と。ま。退。け。け。却。説。木。綿。張。荷。二。郎。の。嚮。長。総。と。留。措。る。飯。店。走。り。還
 して。長。総。と。顔。と。合。し。相。譚。半。晌。許。那。五。十。楨。許。赴。死。の。對。面。の。首。尾。箇。様。々。と。投。名
 状。の。難。題。を。言。送。も。る。其。報。て。身。の。與。面。伏。れ。る。往。還。七。日。と。限。り。ある。隣。國。他。御。の
 綱。を。張。て。前。刀。徑。と。支。と。做。ま。す。の。い。の。七。獲。め。あ。え。を。做。し。容。れ。れ。去。這。地。の。東。來。の。甲
 斐。も。る。後。々。ま。の。あ。る。着。入。進。退。其。首。の。谷。に。け。れ。已。と。の。尋。思。と。決。め。箇。様。々。と。説



長門傳第四回巻二

九三

長門傳第四回巻二



道長毎日いそがしき
長總見引謁隆光
よるの後の船をひるま

ふり平

七不八

香たたく

三〇二

有像第四十四

長門傳第四回巻二

長門傳第四回巻二

初を推其荷三郎が澳津の歌店の騙局お起り公後も又驍と復しる怨を及が思ても
 況他面も脚の舊瘡の迹のミモ山探お似る醜郎るふ妻と喚れ夫と稱へ長光
 陰を銷らぬや渡世の山家も五千槍其苦味ある郎態凛とて且一隊の頭領る面影
 物のひさるゝ何処を前夫藤白王お似るのさるる年の齡も劣らば増さる那木綿張の
 比れ五六歳可の兄とあるれ然そ老朽る身もある今何不足ふと二路路懸るわらん
 やと御高荷三郎が示せ密策お祇念せ他をさる奴僕のお如く最鷹揚お奉動へも有
 敷系おきの破れお怖れて荷三郎が廂座を借て母屋を令らんと欲しぬ那計較の趣は隆光お
 報もせ左中も右も機お攪て狐媚お送りぬ隆光お感弱てその身お他御へ
 夜掙お出さる子雷九郎隆成お下の衆賊お従し折々那遣いぬその支の趣は第三
 集五の巻の三目お見ゆる如く看官前後の照應お意と屬疑お所之間話除煩お程お春の
 行夏も過る是年の秋お月月お時候五千槍雷九郎隆成お雲館奇山奉五曾反氣坊八

白敷振平出水挺頭三木綿張荷三郎們と俱小三許名の小嘍囉おお夜掙の為小大
 和路赴たるが捌月の初旬おかへる多々功お献て那地の首尾お報し隆光おを旁
 んとそ次の宵酒宴の席お前送約莫五個の股肱們お小嘍囉お酒を喫して大か
 るを官待しけれ不要の數巡る隨お送し勅勇武お藝お誇りて辨論口角おあるありて隆
 成やと推禁め各各位さのそ自肩おさるる今番大和路おの夜掙も這頭願負數お比
 せ誇るお獲るおお然と恁我大人の酒肉を費しぬを思へ俱お恥おさるるおと客
 られて驚おるる大家おと頭お搔て現らるるその理ありとせり酒の過る醉てそい
 めと陪話て貌お改める登時雷九郎隆成お父隆光お対して向も諫言せしる用に至
 らぬお申非文おとせしるも已くたぬ夜掙の家法お河内お住居の國郡お豪農富商
 ありとせも一度お犯しぬ故お地方の民お愛敬せしる緝捕の禍お遠慮お人の及らぬ
 所おの理あるべしお時宜おさるる秋這里より程遠くお莊院お九お姑摩姫お

小先生の軍畧。皆悉その圖。當れ。非除姑摩。姫勇婦をも。我們も亦本事の勝負を
 人の譲んと思ひ立ぬか。カシ動して必勝の大利を俱ふ仕んと。今隆光點頭て。多し我も亦
 俱ふ那里赴いて。進退の指揮とせん。案内を知り。要とを。同謀見遣して。多く虚実を探
 らまべ。と。隆成は。その美ら。安ら。見逆那。莊院の光景。と。現ひて。方位。廣。陟。衆
 寫し。合。縮。圖。あり。是。高。せ。と。懐。より。出。し。件。の。繪。圖。一。張。と。親。の。身。邊。お。う。け。奇。山。五。鼠。坊
 八振平。換。頭。三。荷。二。郎。も。燭。臺。の。下。お。存。一。膝。と。找。めて。親。々。連。り。隆。成。の。用。意。と。賞。讀。し。う
 け。中。の。電。次。隆。光。の。肩。と。合。て。件。の。繪。圖。那。這。と。指。示。し。是。を。前。門。の。丙。お。あり。又。後。門。の
 多。子。の。當。れ。東。向。の。透。樓。あり。又。庫。裏。後。と。前。あり。這。餘。負。る。ね。も。假。山。盆。池。の
 樹。枝。漏。之。隈。多く。圖。なる。前。門。の。我。們。父子。并。不。雲。館。曾。反。白。鯨。多。勢。と。找。を。昏。令
 へ。又。後。門。の。出。水。木。綿。張。十。四。五。名。の。下。お。暗。踊。と。違。と。標。合。し。勢。ひ。と。脱。へ。く。この
 夜。の。様。に。凝。滞。多く。思。ひ。隨。勝。不。来。ると。人。を。殺。せ。功。と。せ。ま。い。那。負。財。と。擡。攫。ひ。く。快

退くと。至。刻。と。ま。下。餘。の。機。小。臨。と。變。不。心。と。と。老。煉。の。提。調。大。家。感。服。し。兼。り。也
 応。々。舊。の。席。退。く。と。隆。光。の。改。め。不。意。又。巡。り。酒。宴。與。前。祝。の。現。強。人。の。當。喫。を
 吹。播。猜。卷。開。し。中。の。夜。船。の。漕。も。あり。羽。音。の。命。の。波。も。立。き。惜。し。因。坐。し。是。欲。海。の
 底。高。量。沙。量。も。板。子。も。推。並。て。竟。天。の。一。網。か。る。毒。魚。の。口。か。酒。菜。早。茶。し。が。身
 代。の。裏。返。し。骨。を。折。る。異。日。夜。偷。の。高。量。と。不。醉。も。酔。り。却。説。を。詰。雷。九。郎。隆
 成。の。身。の。意。見。と。稍。聽。され。心。算。も。要。時。の。夜。の。人。數。と。定。ん。と。五。個。の。股。肱
 們。を。促。し。共。侶。の。親。の。身。邊。お。赴。いて。多。く。高。議。及。び。隆。光。の。肩。と。頻。單。めて。那。姑。摩
 姫。の。武。備。の。疎。る。農。戸。坊。賣。と。同。く。お。考。へ。多。く。近。邊。の。那。叔。父。正。直。の。宅。地。あり。尚。八。九。の
 莊。院。の。夜。敷。も。入。り。ゆ。と。少。知。る。主。卒。と。找。せ。我。當。と。敷。捕。ら。んと。欲。ま。然。り。前。後。の。敵。受。ま
 進。退。難。免。及。ん。其。頭。の。准。備。の。多。く。と。向。へ。隆。成。微。笑。て。その。意。も。豫。算。あり。那。正
 直。の。姑。摩。の。叔。父。の。中。で。不。知。る。と。室。所。殿。より。後。見。せ。れ。と。這。ま。り。り。く

老兵を伴ふ。鼠坊八代。願く在下。小先生と俱先登仕ん。とを隆光か。て和殿隆
 成と相資て那里到る。成りてん。心細か。とある。屬る。鼠坊八代。心も果に隆成。後
 下を走。程。後門路。潜寄。方。挺頭。三荷。郎。門。十五。個。小。嘯。囉。と。引。出。て。左。右
 方。の。中。の。隙。隙。期。な。り。も。あ。れ。内。の。暗。跡。の。火。の。起。と。今。と。等。さ。り。け。る。五。三。と。あ。り
 時。候。ま。で。萬。籟。聲。る。寂。寞。な。り。心。疑。ひ。相。其。死。て。今。ま。暗。跡。の。空。を。夜。の。必。是。故。あ。る。と。あ。り
 二。郎。沈。吟。と。然。し。と。前。隊。の。人。を。走。り。と。回。き。と。其。怖。れ。と。の。れ。せ。我。先。獨。潜。入。り。て。内。の。虚
 實。を。現。れ。今。中。躊。躇。さ。る。と。あ。る。自。不。情。語。と。て。あ。か。牆。索。と。ち。掛。り。登。り。て。内。を。入。り
 け。小。程。五。十。槍。電。次。隆。光。の。雲。館。奇。峰。五。白。數。振。平。們。と。俱。あ。り。て。隆。成。們。の。暗。跡。と。等。し。是
 も。亦。功。功。見。る。之。深。る。秋。の。夜。の。星。の。光。と。瞻。仰。て。惘。然。と。と。嗟。嘆。の。堪。ま。衆。賊。と。見。且。ま。を
 念。珠。七。番。八。の。と。雷。九。郎。と。鼠。坊。八。代。俱。暗。跡。と。錯。し。生。物。れ。歎。歎。れ。歎。歎。の。安。危。を
 思。惟。る。不。言。と。吉。少。然。も。今。中。他。們。を。棄。て。阿。容。々。と。退。る。路。を。是。非。及。び。

うち入。て。我。見。の。安。危。を。看。定。て。大。家。立。ね。と。焦。燥。る。提。調。誰。の。擬。説。と。然。し。の。い。の。い。の
 隨。隊。伍。と。乱。と。莊。院。の。前。門。の。推。寄。れ。先。我。と。小。嘯。囉。の。掛。牆。索。と。打。掛。と。潜。入。る
 の。兩。三。名。共。侶。降。立。て。角。門。の。片。折。扇。と。あ。る。多。ん。ち。用。け。大。家。と。れ。便。り。と。存。一。内。を。入
 り。け。當。下。五。十。槍。隆。光。の。四。下。と。急。見。か。る。前。面。の。右。の。庫。藏。中。左。を。則
 庭。口。の。竹。の。兩。折。戸。半。分。開。て。あ。り。原。來。我。見。も。の。餘。の。看。も。這。里。下。る。と。入。り。つ。ゆ。這。方。我
 め。と。低。語。く。先。不。言。と。入。程。の。忽。地。物。不。跌。れ。と。訝。り。と。小。嘯。囉。の。隱。形。把。火。を。兼
 ち。て。相。資。て。是。則。異。物。と。を。斬。と。鼠。坊。八。代。屍。骸。と。韓。竹。割。小。破。ら。ま。た。り
 俱。不。駭。く。衆。賊。の。い。ら。る。隆。光。連。の。嗟。嘆。と。あ。れ。思。ひ。合。は。れ。我。見。の。性。命。心。を
 那。四。下。を。と。と。遠。く。ゆ。ら。び。找。む。庭。の。樹。の。下。或。は。他。の。群。書。院。の。這。方。念。珠。七。番。八
 介。二。名。の。い。ら。る。雷。九。郎。隆。成。も。身。首。所。を。異。れ。鮮。血。の。草。葉。を。浸。す。隆。光。見。る。我
 又。駭。く。衆。賊。を。励。ま。隆。光。と。齒。を。切。り。眼。を。睜。り。朽。を。不。哉。鼠。坊。八。代。三。名。を。我

依客傳第四卷

卷三十四

卷三十四



こまひめ

かひてき虎のからみ路ありしと
 衆賊不戦而辟易女候神威
 久未智えその山おろし風

有像第四十五

あり平

夜入道徳口車老一

三

三



吉平五

吉平五

夜入道徳口車老一

三



巻五の
物語の
後
前
後
を
照
る

児まを敷きせ。怨の九の世と見るとも忘るべし。今、倒瀝が堪む。快打破、桐入のね。
 こまひり、巻やく、何と。
 姑麻姫主僕を生拘と。敷きま、一の、鬼を祭らん。後、まをせと。敦圍、る、聲、共、侶、の。
 奇峰五振平、干許名、の小、嘯、囉、を、找、め、く、咄、と、入、ら、ん、と、な、る。書院の、雨、戸、を、東、門、偶、の。
 絶、小、一枚、用、び、く、あり、し。群、賊、其、首、を、目、の、か、け、ど、堀、植、を、り、く、雨、戸、四、五、枚、一、度、小、破、と、打、
 破、て、桐、入、と、競、小、縁、頼、小、登、然、と、立、る。一、個、の、美、女、あ、り、も、小、短、刀、を、引、提、て、外、目、の、恥、ら、ぬ、奇、
 俠、の、胆、勇、内、強、く、く、外、弱、に、圍、衣、姿、の、依、る、が、う。そ、り、も、乱、ま、ぬ、繡、子、の、帯、長、衣、袂、を、那、
 這、と、結、ま、す。も、翠、翠、做、ま、柳、の、骨、小、軟、竹、の、雪、の、肌、膚、と、ま、を、糸、ど、も、化、粧、つ、と、清、ま、
 月、の、眉、花、も、実、も、あ、は、容、貌、の、問、でも、あ、る、は、姑、麻、姫、さ、ん、と、猜、一、ま、か、ら、も、草、賊、們、の、
 不、立、息、を、打、ま、す。阿、と、さ、り、の、小、存、一、撥、と、退、ら、け、は、畢、竟、あ、の、折、姑、麻、姫、が、防、戦、の、勝、
 肩、甚、麼、を、や、と、ま、這、回、の、題、目、と、有、像、小、ま、り、く、の、知、り、か、い。
 開、卷、驚、奇、俠、客、傳、第、四、輯、卷、之、一、終



